

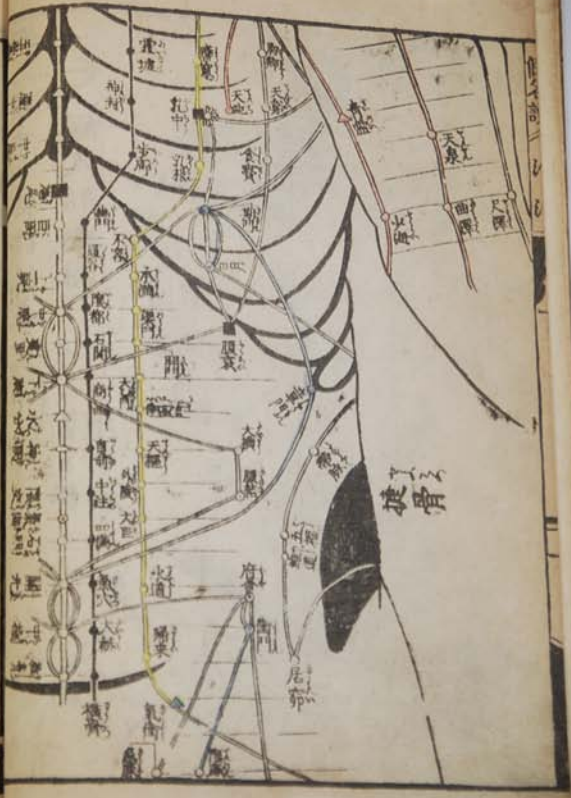
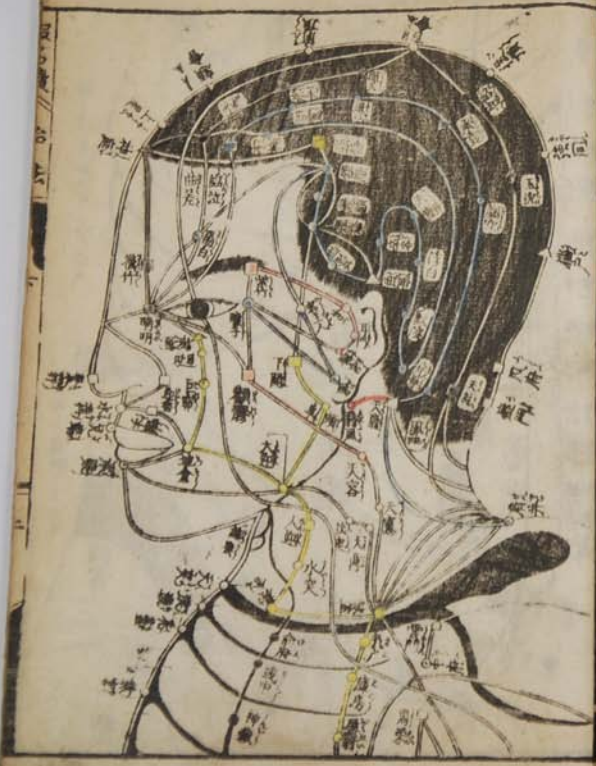
鍼灸
假名讀十四經治方

假名讀十四經治法卷之下

一 銅人形總圖

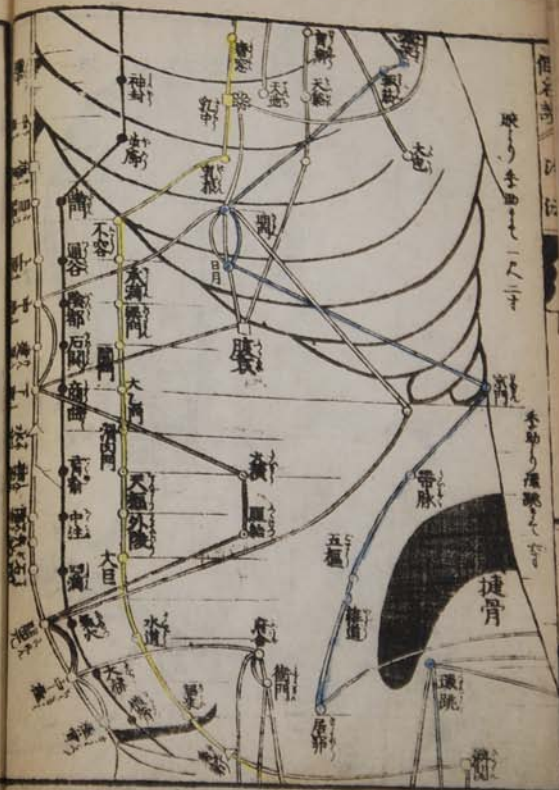
△下ハ灸と禁
□下ハ灸と禁





喉より至りて一尺二寸

季肋の横跳として



喉跳り腰の間の横紋の外角を二尺九寸あり



曲池より腕の陽谿に
さしこみ一尺二寸半



二 癰疽門

癰疽の初て出る先其經絡の部分と看て其各々經ふ
 隨ひ針と行ふ間日々如し或は針日と間する
 といふ効あり日と逐ふ刺し或は一日ふ再び刺し以
 て其毒を瀉するといふ十日に至るまで自ら安し若し
 針日と間て或は針五六度して病者苦しみ半途うて
 癰疽は死ふ至る如し或は死すべし痛内より新肉と生
 し艱苦萬痛累月ふ及ぶ其辛苦譬ふ物なり若し病
 人針治を欲まされ急ふ騎竹馬の穴ふ灸する七壯
 神効ありすなりし○又方癰疽初り出の三日の

前急ふ其腫物の頭ふ灸二十壯自ら安^ん△其初發は
至^るて小^うて粟^{あは}の^う故に人^をを忽^にに^て其毒と
發^する^に至^るは待^てて終^る死^する^に及^ぶ連^る悔^むと及^ぶ
若^し已^ふ三日と過^るん即^ち騎竹馬の穴^{けり}ふ灸^す
各^く七壯奇効^{あり}あ^るを^も○癰疽諸腫或^は痒^ゆ
と痛^い色青黒^の肉^を先^に死^すと終^る救^へ其初起^し
に急^に騎竹馬の穴^{けり}ふ灸^す各^く七壯○癰疽發脊^に
皆^日と逐^て経絡^に針^を行^へ自ら安^ん然^とて主^に
能^治す^る能^く竟^に熱^し膿^ふ至^る三棱針^を以^て
赤暈^の四畔^と刺^す而^て大針^を以^て腫物の頭^と
と裂破^る連^日に惡肉^盡く消^し新肉^已ふ生^ずる^を

③ 騎竹馬の穴法

一條の蠟^{ろう}總^とて以^て病人^の尺澤^の横紋^に。中指^の端^を
と量^て載^し斷^る者^の衣裾^と解^き體^と露^し直竹^の上^に
に騎坐^す尾^尾髀骨^に當^て坐^す堪^へる^に彼^の先^に量^る
蠟^と脊^にり坐^すれ竹^の上^に堅^く總^の端^盡る^所の
脊^の上^に借點^し更^に別^の紙捻^と作^る病者^の中指^の
中^の節^と量^り一^す脊^の借點^{より}左右^へ調^え
端^の盡^る所^に各^々灸^{七壯}止^多灸^す此^の法^を以^て
て之^を灸^す愈^る蓋^し是^二穴^一に

肝の過う所なり。凡癰疽の疾も皆に氣留滯に於て此毒と生と之に灸すれば則に氣脉流通。即時に安。以て死と起。生と回すの奇方なり。

四 腸癰門

腸癰、小腹、腰に連て痛し、或は一脚と寒、身熱す。大の、小便數く、久し、晝へ微し、夜劇し。三十餘日の後、小膿とす。未膿さるの前、預り騎竹馬の穴に灸。灸七壯、神効あり。已に膿て後、肘の尖に百壯、膿汁はを下。一二針、神効あり。

五 疔腫門

○疔腫、面上、口角に生す。合谷、下三里、神門に針す。手、上小生す。曲池の穴、二十一壯。○脊上小生す。肩井、七壯。△病の輕と重とを觀て、重との數と倍して灸す。并に騎竹馬の穴、灸七壯。

六 蒜灸の法

蒜と隔て灸すの法は、其腫毒大し痛あるは痛を麻木する。先濕紙と以て、其腫物の上を覆ひ、其乾く處と候。乃ち是腫頭を即ち蒜と片と厚さ三分けり。腫物の頭の上を置。之を灸。灸五炷。蒜と更へ數々炷す。初め灸て疼は灸て痛する。至

る。初灸して痛むる灸して痛ふ至る山則ち鬱毒と引
の法あり。且田生の功ありけり。若し腫色白く膿と
作されば日期と問に宜く多灸せよ。若し腫物大なる蒜
と搗たらし患せむ鋪き艾と置きて灸するなり

(七) 附子灸の法

附子と削き厚さ菖子の如く正し腫物の上に着け
唾して附子と湿り艾と附子のより置きて熱と
して附子ふ徹りし乾くまで更ふ唾つけ熱と
く附子ふ徹りし屢々乾く輒ち改め。艾氣附熱
と相撃て腫物は徹りし則ち愈ふなり

(八) 石癰門

腫堅く根あり石の如くなりば石癰と云腫物の上
に灸百壯或は二百壯毎日ふ灸べし石子の如きり
も碎け潰るなり

(九) 風丹并火丹毒

三棱針と以て間もろく腫る處及び暈の畔と亂刺し
て多く惡血と出せ翌日更ふ赤氣の在る處と看て初
の亂刺して血と捨る。糞のてしんハ神効有

瘰癧 針し破るに針する則ち毒と肆み

肉瘤 針灸するに皆人と殺す慎し

血瘤 針すゝゝゝ大血と出さず死す

△瘤は種々あり皆能治し易う。其數三十有六
最も血瘤肉瘤癰瘤に針灸の施し方あり膏藥服
藥と以て治すべし

⑩ 蟠蛇癰

療癰の別名あり頂と繞て核と起すは蟠蛇癰と名附
○天井風池肘の夫ふ百壯下三里百勞神門中渚外關
大推皆俱ふ灸て神効あり

⑪ 大小便

○大小便通せられ膀胱俞ふ三壯丹田に二十一壯胞門
ふ五十壯臍下一寸半兩傍各々三すに灸百壯大腸俞
に三壯○小便黃赤く禁せられ膀胱俞三焦俞小
腸俞に針すべし○小便通せられ臍下冷る胞門
丹田神闕營衝膀胱俞皆灸すべし○小便難る臍ふ
對す脊骨の上ふ灸三壯○小便ふ血交り出は胃
俞關元曲泉營宮三焦俞腎俞氣海は年の壯太冲ふ三壯
膀胱俞小腸俞皆灸すべし○腸鳴る澹池く腹痛す
神闕ふ百壯三陰交ふ三壯

⑫ 腰脊門

○腰の邊より脊へけり疼溺水の濁る章門ふ百壯

腎俞百壯。膀胱俞氣海二十一壯。○卒腰痛伸
屈の自由なり。腎俞尾窮骨より上へ一寸
七壯。婦人へ八膠五十壯。○又法病者として正
立細く竹と地とを堅く臍と量りて竹は記しとつけ
其竹と後の脊骨は着け竹の上より記一の當るを
灸す。年の壯ふ隨ふ是と俗ふ臍よりと呼ぬ。○
腰痛て腹の鳴る。神闕百壯。胃の俞は年の壯太谿
太冲三陰交五十壯。妙効あり。○老人の腰は
腎俞三十壯。命門五十壯。即効あり。○腰腫て倦
痛。崑崙太冲章門二十一壯。能愈るなり。

(三)

咳嗽門 并痰喘

凡痰喘熱ふ因て上へ太氣の灸上より致るなり。○
咳逆久し止むる大椎より五の推ふ至る節の上
に灸す。年の壯ふ隨ふ而して期門は三壯。立で
止し神効あり。○又方乳の下一指と留ひけり。當
て正乳と相直る胸肋の間陷を中に灸す。と
三壯。女人へ乳の頭と屈る之と取り灸は男へ左
女へ右。肌ふ至る立處を治す神の。○音失
る魚際合谷間使然谷肺俞腎俞灸す。○喘
息。合谷太谿上星太陵列決下三里等に久し。針

と留りて其氣と下にべー。○哮喘ふへ天突ふ五壯又
細々蠟繩の類を頸に套く前ふ垂ふ鳩尾の骨の尖
り分量を其両端と後ふ旋脊骨の上へ索の盡る處
に點記し灸七壯とて二十一壯。○痰喘ふは膏肓俞ふ灸
一腎俞ふ灸一合谷に針し太淵ふ針し中脘に二十一
壯神効あり。

⑤

膝脚門

○足の内外の踝に紅く腫て日久く膿を微く痛
て座し難くは騎竹穴ふ灸七壯若愈されへ更に灸
すべし。○足脚輒ら轉筋てて痛忍ひ難くは兼山

灸三十一壯若し内らの筋攣るは内踝の尖を灸
七壯外の筋急るは外踝の尖を七壯妙なり。

⑥

手臂門

両手俱ふ大に熱して火の中に在てて湯泉を灸
五壯立どろろふ効あり。○左の手足俱ふ何れも倦
力を乏る神闕ふ百壯如しこれ愈ざれば五百壯
と灸すべし。○手の五指俱ふ屈んで伸さずは曲池合
谷中腕ふ針し伸く屈さず。

⑦

鼻病門

凡水出ると軌と血出ると衄と俱ふ風府迎香上

星ふ十四壯灸と。太冲絶骨合谷大陵尺澤神門等と
治すべし。○衄血止す。瘡と言語不能。肺俞合谷間使大谿靈道風府太冲等治す。○鼻塞
る。臨泣合谷灸す。○鼻の中に瘻肉を生じ涕
出。上星に百壯迎香神門合谷肺俞尺澤顙會皆灸は
○赤白痢。臍中に百壯神効あり。○脱肛。若し苦
し。神闕に年の壯百會ふ三十一壯膀胱俞ふ三壯。○大
便秘結絞重。巴豆の肉と餽す。餅の。○臍
の中にむね其上ふ灸三壯即効あり。

十八 痔疾門

痔ハ凸の肉孔の中より出るなり。是肉ふ三稜針を用ひて
多く血を取棄とべ。立處ふ治愈と。○又方凸の肉ふ灸
す。百壯即ち平す。効と奏す。○痔疾種々の症あ
る。百會瘰癧門等灸す。神効あり。

十九 勞瘵門

勞瘵。獨て艾火を以て貴。針術藥餌ハ功大。
微。脊の第三推より十五推の尖ふ灸。効あり。或
ハ脊骨と挟ん。兩傍も其病鬱の氣の聚る所と見認て
數所と焼な。○四花患門等に灸五萬壯妙。○又方腰

眼の穴ふ艾と安し山椒の末と密ふ饌りく餅の如くし
其四畔と圍て火氣と留りたる數日灸りて三万壯ふ至
るに族類に傳る虫は殺せ是と遇仙の灸と名附神効有

(三)

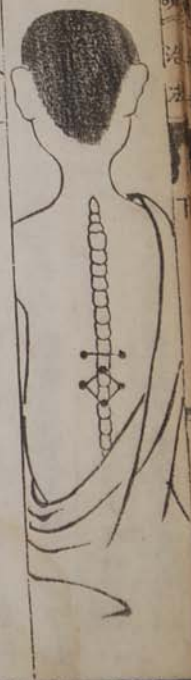
四花の穴法

第二穴は先患人と平身に正しく立し蠟繩を以て男
いたる女は右の足の大拇指の端に繩の頭と當
て足の掌に循し後に向ひし膝の胸の所大
横紋に至りて截斷諸患人の髪と解き兩邊へ分
平身ふ正しく坐せし彼足を量りし繩と鼻の尖
より上よりあて指しと按へし繩を引く上に向ひ

頭の正中皮を循ふて腦後に至りて肉を付く垂と
下し背骨の正中に當て繩の端の竭處に記し
附け卻て病者の口を微く合し短き蠟繩と
以て口の丸を角より上へ唇の吻を循て鼻の根
に至りて斜に下し口の右の角に至るなり
如くして截斷此繩を展べ中と指し墨として記し
先記しし背中の骨の上を壓し當て墨と記し
と合せ横ふた右へ調へ平よりて高下もなく
繩の両頭の竭を墨として記すへし灸なり
第次の二穴は病人と平身ふ正しく座せし兩肩と脱

蠟繩と以て項と繞り、前に向ひて雙筋、
垂下し、鳩尾の尖を齊く、即ち雙へ截る
是繩の中心と喉の結骨の上に着て繩の両頭と
引て後へ向へ背骨の正中に當て繩の端の盡る
ところ墨を記す、卻て病者と口と合する短
く蠟繩と以て横ふ口の両吻と一文字の如く截
取る中より指し墨を記し、背骨の上の前ふ點
する所に推し、前の横ふ両端の盡る所ふ
墨を記し、是四穴と共み同時に灸各七壮より
十五壯に至り、百壯ふつゝ或は百五十壯神効あり
灸瘡初て發るものと候て後の法に依て又二
穴は灸す。

第三の二穴は第次の口と量る一文字の繩と中より
指し墨を記し、第次の背骨の上へ正中に推あ
て、上下に隔て繩の端より上下盡る所を墨して
記す、是四花の穴より灸する、各々百壯第三で
あり、六穴也、日輪の穴を取て是も灸する、奇効
あり、尤妙、は百日の中飲食房勞を慎み身と静
むる處を置く、心は安んじ、三十日の後尚い
ずと愈するは覺る、復初の灸穴も再灸す。



(六)

小兒門

○遊風の毒胸腹入則死なり是時急ふと三稜針を以て紅き處を亂刺して多く惡血あくちゆうを出し翌日更また紅赤の處を見て右のく針刺し奇効あり○驚風おどろかしふは神道ふ灸七壯より百壯ももに至る○陰卵偏く大く腹に入ふは太冲獨陰氣海三陰交關元を治す一○雀目さざなみ一牛の大指の甲の後第一の節の内の横紋の頭白肉の際ふ各灸一壯肝俞に九壯○兒生より一七日の内啼なみ多く客風臍へその中うちアて心脾に至る神門合谷太冲列缺各灸七壯○先まづ驚後おそふ啼なみの噪なみより百會ひやくかいふ七壯鬲交間使に五壯○浮腫うきしむありて氣促きそくより水介に三壯三陰交さんいんぎうは三十壯脾俞ひりやうふ三壯奇効あり○乳と吐はき中庭置中ちゅうていしちゅうの下一寸六分いちすんろくぶん灸灸より五壯○四五歳四五さいを言いつより心俞足の内蹠しやくの尖の上に各灸三壯○臍の腫より臍に對たいより背骨の上に灸三壯或は七壯奇効あり○小便通せうべんつうより百會ひやくかい七壯湧泉ゆうせん三壯胞門ほうもん五十

壯而後芭豆の肉と搗て餅とす。臍の中に填て
灸五七壯好。○口噤するは然谷と治る。○善驚ふは
然谷。○多く哭ふは百會。○遺尿は氣海に百壯。太敦
は三壯好効あり。○夜々魘と見悵へ或は自汗。驚
悸。或は晝して息す。又は譫語とすは心俞
に百壯。腰眼。大陵。湧泉。後谿等に三壯即効あり。

五癇門

△夫急驚風は風に因く作る。或は禽獸雞犬の聲に
聞て作る。口涎と生じ。一身搐搦。身口皆熱。其
發るや暴烈。惺て後舊のて。

慢驚風は大病の餘或は大吐の餘は發するものなり。内
大に虚乏。其身口鼻の氣出とと皆冷時々痰涎に
或は昏睡。瞤と露る類なり。

右急慢驚の両症より氣絶するものは先大衝の脉
と臍に絶するものは必治すべきなり。○其治法は百會
に三壯灸は或は兩乳の頭ふ五壯背の第二推と五推
ふ灸七壯。或は臍の中に百壯神効あり。△醫多くは
大柱を以て灸壯と多く灸は僅ふ十四五壯うて上。曰
く不治なりとて歎す。予往々是症に遭くは先
太衝の脉と臍と未絶するものは肝俞鬼眼神庭百會

等ふ灸。後、神闕灸す五十壯。百壯二百壯
に。つゝも、輒、効と奏するあり。△案、火氣
神に徹せん、驗なり。神と補ふ火氣を以て、
火氣能生と回す。神と火氣と得て盛なり。効ある
るか、艾火の神と毀う。病と減じ、孟軻の曰く三年の
病ふ七年の艾と用や。若之に據るゝ治せざるもの疾
ひを、ん乎

馬癰、金門、神門、臍中に三壯

羊癰、大椎に三壯、第九推の下に三壯

牛癰、鳩尾に五壯、三陰交、大椎とほそ

雞癰、百會間、使絶骨、申脉七壯

犬癰、勞宮、申脉、各一壯

猪癰、太淵、巨闕、絶骨、三壯

食癰、鳩尾の上五分に三壯、三陰交

⑤ 婦人門

婦人多く血病なり。經水期をくく、て來るゝ血虚
て熱あるあり。經水來ん、痛と作るのは
血實、氣の滯るゝ。○婦人、月水調。或は小
産の後、帶下、腰痛、口乾、發熱、大腸調。時々血
を下、久く懷孕する、石門に七壯、百壯、至

る曲泉ふ三十壯奇効あり○女子十五六歳より經
水行ず日夜寒熱往来一手足痺と食進ば頭痛
心悪く嘔吐し腹中塊ありて否へ痛に天樞百壯
章門大腸俞曲泉曲池臍に對する背骨の上に二壯
灸す即効あり○陰挺の出るより照海太敦太谿陰蹻
曲骨曲泉ふ三壯○血塊ありて月事調わらず關元
間使陰蹻天樞皆針して奇効あり○臍下に冷疝あ
る時々痛し氣海獨陰陰交太冲に灸する白
壯より二百壯○赤白の帶下る曲骨ふ七壯太冲關
元復溜三陰交天樞に一百壯灸す○月經の通ぜら
る合谷陰交血海氣衝ふ針す○血淋し丹田に
七壯より一百壯ふ至る○淋瀝し照海曲泉小腸俞皆針
して神効あり○惡心して腹痛する石門に十四壯
より百壯ふ至る陰都巨闕と挟し一す五アふて下
の二すに直灸三壯針灸禁む一度針て身と
終る子より四滿ハ臍の傍と挟し五分にあり下
の二す直れ灸三壯神効あり○乳癰し騎竹馬の穴
に灸す効あり○乳のけをれし中七壯より五十壯
ふ至る好し是穴處ハ針と禁む○陰中乾痛て
陰陽と合する能く曲骨ふ五十壯奇効あり

○小便より血交て出る。膈俞に針す。三分留し
七呼灸三壮。○月事斷る。陰蹻は三壮。陰交は百壮

風癰門

鼻塞て面熱して夜寝て鼻より血と出。眉毛墜落
眼眶腫と一身癢痒瘡と成。三棱針と以て一二日と
間て身上の肉黒とて亂刺。肉汗出る。至
百日又針て骨に至。初の汗出。百日續
眉生。後即止。灸も肉黒とて随て
佳。只調攝。専ら針灸の法に依れ。慎て風寒を觸
てられ。良効あり。治疔の委中。尺澤。太冲。皆針て血
と出。奪う。黃の。池門。中渚。絕骨。崑崙。申脉。太淵
照海。内關。合谷。人迎。肺俞。胃俞。脾俞。等皆治す。

急死門

中惡と名く疾あり。是病。惡氣入中。皆陰中
の毒氣なり。人多く莽々たる草の中。或は生茂
藪の裏。或は人常に行ぬ墓原より。或は古き井口
に入て。忽ち急死す。是時。忽ち百會に二十一壯
間使。羊壯。桑葉に七壯。人中に五十壯。陰卵の下十字の紋
に三壯。神闕は百壯。下三里は七壯。大は神効あり。皆能生
と云ふ。○溺水して死するに。神闕は

更に他の草と以て度と改む。別に外の蠟繩と以て前の中に折る四すの尺ふくむ是とも又四すの圖左のて

更ふ郎の尺と以て前の偏く四すにふくむけり取をり

半と去じ右の四すの尺と又真中より二ふ折く二ふ折の二すは偏く捨く二すと取故は半と去く云

二すより捨

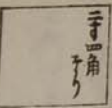
二すと取

上二すと切捨
下二すはより

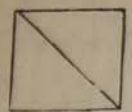
此二すの尺と以て法紙と四角

に切く二す四方を以て是と筋連に折角と角と重合る三角鱗の象と云をり。即ち兩隅と以て柱す。是と云う。隅は角をて四角の紙と角と角と合す。三角は是形と柱す。圖花のて

二す四角

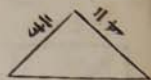


此二すの紙と法は是の如く
二す四方に紙は截をり



二す四方の紙と圖の如く筋連に折る。是と斜に折る。是上より角と角と合す。也

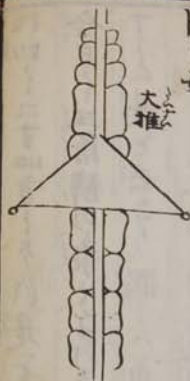
三隅の象



隅ハ角なり三隅ハ三角なり上その筋違に
折る此の三角にうろ鱗形のぞ琴柱
に似る經文の柱の字ハ是義なり

右の三隅の象をちりて以て背と量る上より夫と
大推ふ當下の両傍乃夫て便り背の二行にあるなり

圖の如し



下兩隅の端に点は兩俞
相去る全く三すここれ
背俞扁と相合と

禁針穴の歌七首

數々唱て記臆す

- 二十二穴針と忌む可るを腦戸顙會に神庭乃穴
- 兼泣く兼靈ハと玉枕角孫顙顙絡却と
- 神道ニ靈臺靈中忌むと神闕會陰水分り穴
- 横骨と氣衝手の五里三陽絡箕門兼筋及び青靈
- 遇く肩井と刺めと人ハ氣絶す
- 雲門と鳩尾と嘗く刺るれと缺盆と客主人なり

禁灸穴の歌

○禁灸ハ四十五とあるなり兼光症門風府なり

